



ふじみ野ふあいぶるクラブ 業務運用設計概要(簡易版)

Ver	改訂日	作成者	承認・日付	改訂箇所
初版	2013/4/1	篠島幹昌	篠島幹昌・2013/4/1	
2.0	2013/8/11	篠島幹昌	篠島幹昌・2013/8/11	総会プレゼン内容反映
2.5	2013/8/12	篠島幹昌	篠島幹昌・2013/8/12	ページ追加、修正等
3.0	2013/8/14	篠島幹昌	篠島幹昌・2013/8/14	ページ追加、修正等



1 理念、テーマ、事業カテゴリ

【理念・ミッション】

『(スポーツおよび文化活動を通じた)ふあいぶるで笑顔の(未来)まちづくり』

【3本の矢(3つのテーマ)】

- 1) 地域スポーツ新規層の場づくり(スポーツ・文化の底辺拡大、間口を広げる)
- 2) 一貫的な育成サポートの場づくり(部活支援はじめ地域の一貫育成環境づくり)
- 3) スポーツの価値向上 (他分野や他団体との連携による新たな価値づくり)

【事業カテゴリ(区分)】

- 1) スポーツコミュニケーション(子どもから大人まで、未経験者から経験者、親子参加)
- 2) (子ども達の)はじめてのスポーツ
- 3) 中学校部活支援
- 4) イベント(新たなつながりによる新たな価値づくり)
- 5) 文化振興、学校教育支援、生涯学習支援
- 6) トップチーム、アスリートとの連携
- 7) 介護予防の場づくり

2 ビジョン

【ビジョン…将来像 20XX年】

近い将来20XX年。ふじみ野ふあいぐるクラブは、「ソーシャルスポーツ(&文化)」、という観点から活動する団体に成長・発展していた。

『ソーシャルスポーツ』とは競技スポーツや生涯スポーツという観点だけにとらわれないスポーツや文化活動を通じ、「人と人」、「地域と人」がつながり、「地域も人も、ともに育まれる」新たな場をつくっていき、そしてさらに地域課題をも改善していくアプローチのことで、当初はなかなか浸透しなかったものの、現在はその活動が実りカタチとなってきており、地域の多くの世帯がクラブ参加者である。

親子でスポーツを週末に楽しむ家庭が多く、クラブの場はその役割を担っている。他地域よりも子ども達や地域住民のスポーツ参加率(実施率)は高く、子ども達はゲームよりもスポーツの方が人気があり、バスケ、バドミントン、テニス、新体操、チア等は特に人気種目だ。

さらに図工、科学、音楽など文化活動プログラムも充実しており、住民の「学ぶ・楽しむ」というのが当たり前になっており、それぞれのテーマコミュニティは人が集い、つながる場にもなっている。近年では科学オリンピックを目指す子供たちもでてきた。

子育て世代のママ達のなかでは、「子育てするならふじみ野」が定番になっており、クラブもその環境づくりの大きな役割を担っている。また働き盛り世代のパパ達にとっても活躍するプログラムや役割がありクラブ参加率も高い。高齢者においても、孤独なお年寄りほとんどおらず、様々なプログラムに参加していろんな人たちとつながっており、介護知らず高齢者が非常に多い街になってきた。

勿論トップアスリートやトップチームを目指す人たちもいて、専門指導者がサポートしている。さらにクラブが職員雇用もしており、クラブマネジャーにおいては職業確立モデルにもなっており、日本全国いや世界に向けて情報発信ができる先進クラブになってきているのであった… つづく



3 会員推移、会員増に向けて

2008年5月 78名(会費制開始)
 2009年3月 210名(正式設立)
 2010年2月 280名
 2011年2月 374名
 2012年2月 336名※震災(計画停電)影響
 2013年2月 421名

	未就学児	小学生	中学生	高校生	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	60歳以上
男性	0	153	36	9	5	2	24	1	0
女性	6	146	24	5	0	4	5	0	0
合計	6	299	60	14	5	6	29	1	0

2013年7月約420名(2014年3月500名見込み)。年間のべ参加者15000人以上

- 1) 年間のべ参加者人数およびリピーターと連携団体数を重視
 まずは年間のべ参加者数11万人(ふじみ野市の人口規模)
- 2) 「世帯」を重視。1000世帯→2000世帯→10000世帯
- 3) 小学生、親子層がメイン対象だが、未就学児層や60代以上層も増やす

4 ヒト：人材（スタッフ、指導者）

《スタッフ》

理念や活動に共感でき、（バランス感覚と熱意ある）地域一般及び学生

《指導者》

【スポーツ関係】

- ① 体育協会所属種目団体経由および関係者紹介の（バランス感覚と熱意ある）指導者
- ② 専門資格をもつ指導者、もしくは同等の経験がある（バランス感覚と熱意ある）指導者
- ③ 外部の専門組織からの（バランス感覚と熱意ある）派遣指導者

【文化関係】

- ① 専門性や経験があり、念や活動に対して共感でき、熱意がある地域一般及び学生



種目を超え、クラブ理念共有により繋がる

いかに楽しめ、育めるか（方法論含め）を
情報共有し、勉強会や研修会を開催！！

【スタッフ・コーチ関係者人員計画 ※2019年度目安】

スタッフ 5名→10名（うち職員4～5名）

ボランティアスタッフ 10数名→80～100名

コーチ 20数名→50名※外部からの派遣含む



5 カネ：資金（活動予算規模）

「自主運営・受益者負担」を機能する仕組みをつくる！

【2009年度：H21設立】 1100万円（うちtoto助成600万） toto比率55% 定期会員280名

【2010年度：H22】 1300万円（うちtoto助成690万） toto比率53% 定期会員374名

【2011年度：H23】 1500万円（うちtoto助成740万） toto比率49% 定期会員336名

【2012年度：H24】 1900万円（うちtoto助成800万） toto比率42% 定期会員421名

【2013年度：H25】 2000万円（うちtoto助成650万） toto比率33% 定期会員500名

【2014年度：H26 ※見込み】1800万～1900万（うちtoto助成300万） 定期会員550～600名

【2015年度：H27 ※見込み】2000万～2200万（うちtoto助成200万） 定期会員650～700名

【2016年度：H28 ※見込み】2200万～2500万（うちtoto助成100万） 定期会員750～800名

2019年度（設立10年）・・・1000世帯以上 1000～1300名（予算規模3000万円）

※1300名は埼玉県の最も規模の大きいクラブレベル！ 指定管理事業受託や

大学などを拠点にしていないクラブとしては、あまり前例がない！

また、収入構造を会費 6割、協賛・寄付 2～3割、委託・その他収益 1～2割に！

2029年度（設立20年）・・・4000～5000世帯 8000～10000名。（3～4億円）



6 モノ《サービス》：協働・連携と拠点展開

【協働・連携】

- ・市町村自治体(市行政)との事業共催化、もしくは協力実績を重ねるなど関係づくりを重ねる。
市主催事業の限界をサポートする(例えば期間限定のスポーツ教室の継続受け皿になる等)
※場所確保・調整、連携プロモーション、人材連携などで密な連携を行っていく
- ・市体育協会に対しては、種目の底辺拡大の可能性のあることを提案。モデル種目を設置し、
(本クラブではバスケットボール)効果や実績を共有。若者離れや会員不足の解消にもなり得る。
- ・そのほか団体(学校、地元企業など)の関係づくりも、既存の限界やニーズをサポートする
カタチで積極的にアプローチ！

【拠点展開・ネットワーク】

- ・中学校区展開 → 全小学校区拠点展開を目指す(地区格差がでないような拠点展開)
- ・エリア分析(児童数、他団体活動内容、地域事情など)のもと展開

- ①拠点ネットワーク化 ※点 → 線 → 面 をつくる
(付加価値の高いサービス提供、活動浸透につなげる)
- ②連携する既存活動(事業)の価値も高める！



7 モノ《サービス》: 種目普及・展開

【種目の普及(方針)】

種目モデルをおき(バスケットボール)、その成果などをもって、他種目にも展開を提案。

子ども達の育成は競技前段階の「遊びスポーツ」というレベルで、小学生層以下に間口を広げていく。
※従来型の「(競技としての)強化・普及」という観点ではない、子ども達の(各個人の)心や体の成長を重視した段階型育成をスポーツの発展段階 (「あそび」→「スポーツ」→「競技」)にあわせて行う！

【種目の展開】

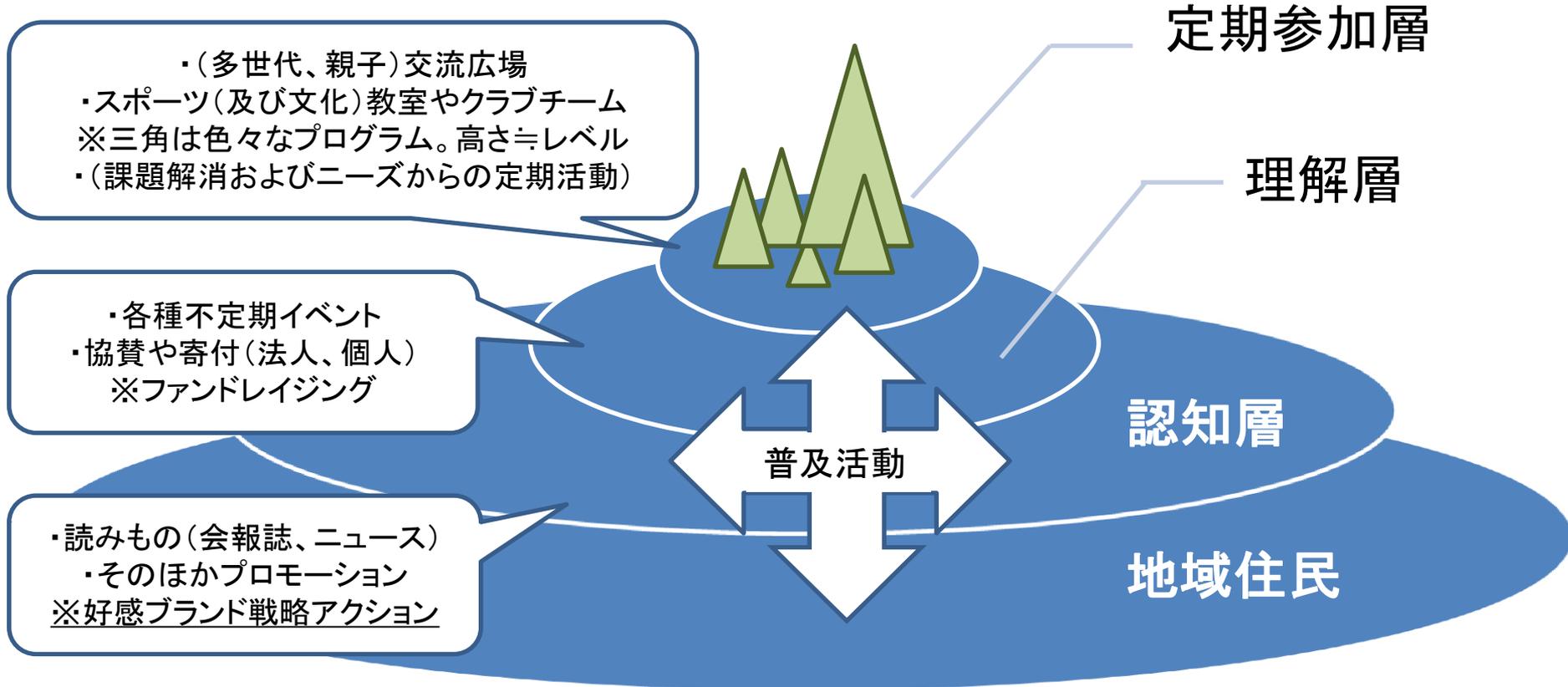
天候などに左右されず、場所も比較的確保しやすい、室内スポーツ系でスタート。

チームスポーツ系、個人スポーツ系、ボール運動系、非ボール運動系、文科系などバランスやニーズを考慮し種目を展開。基本的にはクラブ側で提案するパターン、体育協会種目団体から希望により種目導入するパターン、それ以外からの希望で導入するパターン。

種目展開は拠点展開(エリア戦略)とセットで考慮！

8 モノ《サービス》: クラブの認知(普及)アクション

アクション





9 情報発信：活動事例などの情報発信

「小学生チアダンス教室」⇒ 行政主催の事業の継続受け皿として場づくりをする活動事例

「バドミントン教室」⇒ ふじみ野市にはなかった小学生の場づくりの例

「はじめてのスポーツ」バスケットボール教室 ⇒ 市内6中学校区に展開。地域格差をなくした例

「わくわくバスケホリデー(イベント)」

⇒ 総合型クラブ×地元企業×プロトップチームによる、子ども達や親子で楽しめるイベント例

・「市内部活バスケ大会」

⇒ 総合型クラブ×地元中学校部活×プロトップチームによる大会が少なかった事を解消する試み

・「室内テニス教室、バスケ教室・クラブチーム」

⇒ 指導者組織との連携による専門指導人材の受け皿にもなりえる試み例

・「こども科学教室」

⇒ 地元のプロボノ(普段会社での仕事スキル・専門スキルを地域活動に活かすボランティア)を活かし、その輪を広げている例

インターネット、SNS等活用による積極的な情報発信
※クラブ自体の価値を高め、より多くの人達と繋がっていく



付属： ふじみ野ふあいぶるバスケ2.0(概要)

※種目モデルのバスケットボール以外にも参考となるものとして高めていく

【方針】

地域バスケで人を育み、将来地域に貢献できるスポーツ文化人の育成および好循環の創出。

※「心・体・技」の割合は、まずは「心5:体3:技2」を目安にする！中学生で「4:3:3」に！！

心

- ・他人の良さを見つけられる(他人のせいにならない、言い訳しない)
- ・夢中になれる(きちんと話を聞く。あきらめない)
- ・挨拶をする、感謝をする、準備や掃除・片づけは自分からみんなでやる

体

- ・体幹づくり(スタビライゼーション など)
- ・運動神経系(コーディネイティブ能力)を高める
- ・経験があるメンバに対しては、体力、アジリティ、さらにバスケIQ(素早い判断力)も高める

- ・パワーポジション、ファンダメンタル、シュートがうまいプレイヤーを目指す(全共通)
- ・右でも左でもでき、アンダーハンドもオーバーハンドもできる事を目指す
- ・経験があるメンバに対しては、力強いプレーとクイックネスができることを目指す
- ・経験があるメンバに対しては、1つのリズムで2つ3つとできることを増やす

技